

初めに、十月祭、お疲れ様でした！！5日間に渡った十月祭は、色々な意味で皆さんの中で特別な思い出になったと思います。私自身も今年初めてお客様をお招きし、スタンプラリーやフォトスポットを楽しんで下さる姿を見ているのは、1年間の努力が身を結んだようで、毎日胸がいっぱいになっていました。そう感じたのはきっと私だけではなく、生徒の皆さんもだったと思います。各クラブ、委員会の毎回の活動で培ってきた自分なりの成果。努力して納得のいく試合や、準備期間でみんなで協力して作った一つ一つの企画を見て頂くのは、嬉しいような、緊張するような、むずかしい気持ちになった人もいるかもしれません。それだけではなくて、もしかしたら上手くいかなかったこともあるかもしれない、同級生の輝く姿を見て、羨ましく思う時もあったかもしれない、でもその一つ一つの気持ちが、更なる自分に繋がるきっかけになったらいいなと、私は思っています。ここからは私の1年の経験の話になりますが、このスピーチを考えながら今までのノートやプリントを眺めていると、私の中での十月祭は、基本方針を決めた時からずっと、自分の支えだったなと思えました。初めての委員会で基本方針を決め始めた時は、これが十月祭の指針となるものだと考えると、緊張して上手く司会が出来なかった。また、沢山出てくる候補をまとめるのにも苦戦をした。だからこそ初めての経験に戸惑い、とにかく自分で何とかしようと1人で勝手に突き進んでいたかもしれません。後輩が入った委員会では、今まで自分がずっと憧れてきた先輩のようになりたいと必死になりました。けれど委員会を進めていくうちに、十月祭担当の先生方、また、副委員長や、委員のみんなと沢山関わり、毎日のように考えて、試行錯誤したことが、緊張や焦りを、楽しさや自分の気付きに変えてくれました。初めて十月祭委員に立候補した時は正直、楽しさを求めています。しかし今年の約1年を経て、むしろ難しさや悩むことの方が多かったかもしれません。それでも皆で悩み続けて決めた企画や意見の積み重ねが私の中に蓄積されて、様々な結果に繋がったと思っています。先程副委員長が、十月祭は1人で作るものではないと仰っていましたが、当たり前なことでもその意識が1番十月祭に必要なものだと思います。私自身もこの1年、たくさんの人の支えがあって、新しい経験がたくさんできたと思っています。何より1年間副委員長と、ずっと高め合いながら活動してきたこと、困った時にさっと気付いてくれる優しさに、たくさん支えられました。忙しくてもそれが私達らしいと言えるくらい、それが今やなくてはならないものになりました。私は今後の委員会の活動が終わった後、物足りなさを感じたり、またやりたいと何度も思うと思います。本当に十月祭を副委員長と一緒にやれて良かった。そして担当の先生が私達の原稿や企画を沢山読んで、改善点を見つけてくださったこと、委員会や休み時間ですらもたくさん助けて頂きました。頑張って、と笑いながら言うことが、私と副委員長のやる気に繋がっていたと思います。最後に十月祭を作るにあたって、沢山の先生方や、委員のみんな、友達の支えがあったこと、それは何より大きいし感謝しかありません。先生方が何とかベストな形で十月祭を開催しようと尽力して下さったこと、委員会の各小委員会が合わさって、素敵な5日間を過ごせたこと、そして他にもたくさんの人に協力して頂いたこと。

私達はその良さを、そしてこの活動によってできた成果を、十月祭当日だけでなく日常から伝えたいと思い、今年初の試みとなったラジオや新聞をやろうということになりました。この企画によって、少しでも私ももっとこうしてみたい、そして十月祭にもっと関わりたい、そう思って頂けるこ

とが私達にとって一番嬉しいことです。きっかけは楽しそう、だけで十分。参加してみれば、絶対にそれだけでは済まないたくさんの出来事が待っています。私も1年生の時は先輩への憧れを沢山抱きました。2年生では中立の立場でやることの難しさを覚えました。3年生になって、今年こそはコロナがなくなって欲しい、最初は本当にそう願っていました。けれど思い返してみると、1、2年生の時の先輩方はコロナ禍で制限されていても、十月祭を終えると本当に嬉しそうに、やりきった表情をしていたのを覚えています。今自分がその立場になって考えると正直、コロナなんか関係ない、もちろんない方がいいのかもしれない、けれど節目の60回目の十月祭で、新しい自分たちなりの形を築けたこと、そしてコロナがあってもそれを乗り越えるために臨機応変に対応していく必要があった1年が、より濃く思えます。だからこそ今年の1、2年生には今年の良い所をたくさん生かして行ってほしいです。

私はこの約1年間、たくさんの方に支えられて十月祭の活動がやっと成り立ったと思っています。委員長という立場にならせてもらった以上、それなりの責任や仕事はあったけれど、自分になりたいと思ってやったことは、今までで一番自分が大きく成長したと思っています。支えて頂いた友達、先生方、家族にたくさんの感謝を伝え、十月祭までの活動を終わりたいと思います。本当に、ありがとうございました。

十月祭行事委員長